経営品質向上活動のご紹介

〈2023年度版〉

【INDEX】

Ⅰ．経営品質の求めるもの
Ⅱ．経営品質とは
Ⅲ．経営品質をはじめるには

公益財団法人 関西生産性本部
関西経営品質協議会

KPC
KANSAI PRODUCTIVITY CENTER

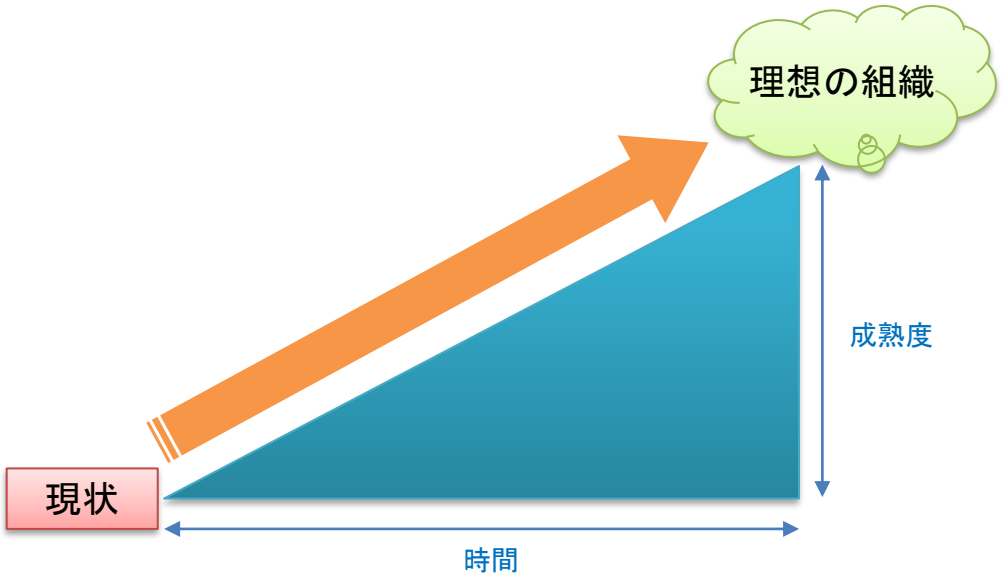
経営品質とは

理念・ビジョンから導き出される

「理想の組織（理想的な姿）」

に向けて、

長期的な目線で経営･組織を変えていく考え方



©2023 Kansai Productivity Center

事実前提から価値前提へ

事実前提の経営

目先のことに目が奪われ、長期的な視点を見失ってしまう。
事実を、その場その場のこととしてとらえ、その場を取り繕う動きになってしまう。

価値前提の経営

組織の「望ましさ」は何か、組織はどこを目指すのかを明らかにする。長期的で恒常的な目標を設定し、それを目指していく。
事実を長期的目標からとらえて意味を明らかにする。

©2023 Kansai Productivity Center

経営品質の成り立ち

KPC KANSAI PRODUCTIVITY CENTER

顧客満足（CS）経営についての研究がスタート

1993年に、顧客満足経営に先進的な大手企業20社の幹部が集い、これからの顧客満足経営のあり方を検討する「研究会」が発足。

米国の「マルコムボルドリッジ国家品質賞（MB賞）」に着目

1980年代の米国は、日本やドイツに比べて品質が大きく劣り、競争力が低下した状況であったため、レーガン政権は米国製品の品質向上が国家の重要課題と結論づけ、米国の問題点や根本原因を深く追求する研究が行われ、MB賞が設立されました。

顧客価値を中心として経営革新を進めるモデルとなるべき組織を表彰する制度として、「日本経営品質賞」を創設

1995年に、（財）社会経済生産性本部（現・日本生産性本部）が多くの企業に参画を呼びかけた結果、100社の幹部が集まり、2年間にわたって、日本版の顧客価値経営を評価する基準づくり、表彰制度検討、パイロット審査の実施、産業界へのアンケート調査などの多様な研究を行い、創設しました。

「“良い経営”を通じて関西から世界に誇る企業・組織を輩出する」のミッションのもと「関西経営品質賞」を創設

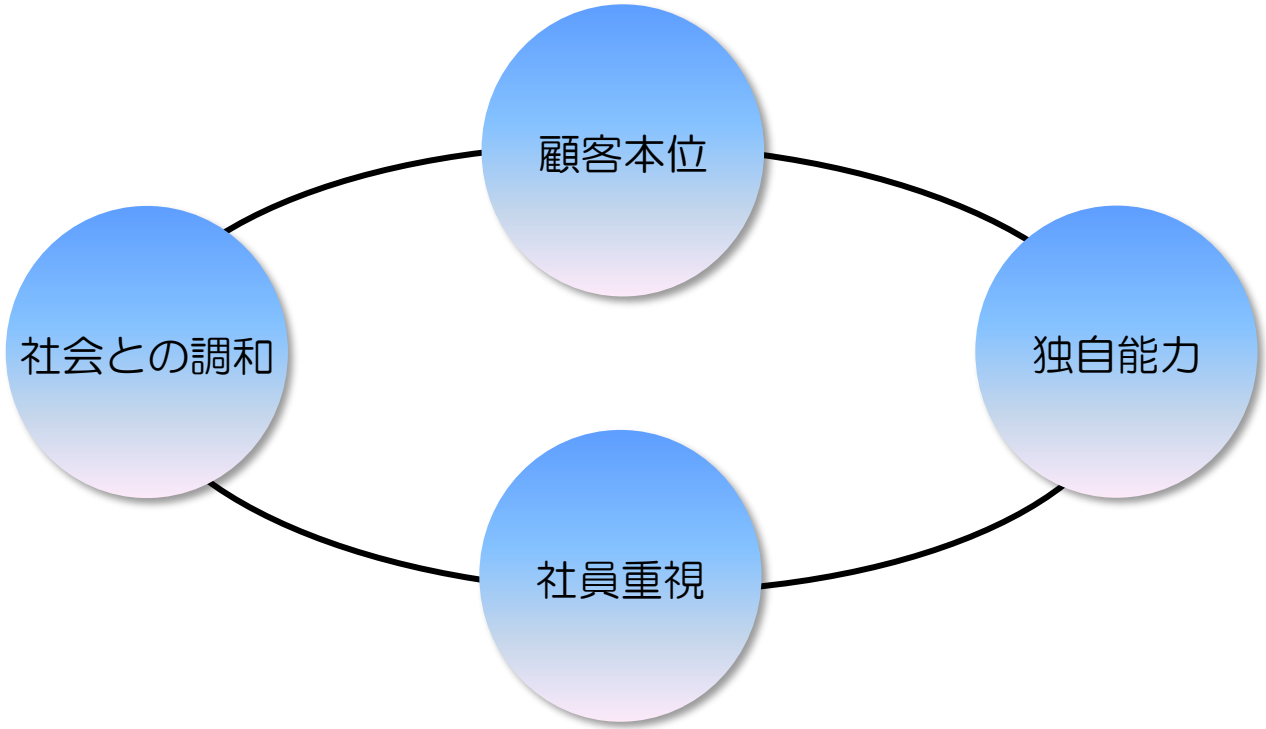
2004年に、関西のあらゆる組織が顧客本位に基づいた自己革新を果していく動機づけとなるよう、イノベーションに継続的に取り組み、優れた業績をあげている組織を表彰し、関西全域に経営品質向上プログラムの視点に立った経営革新を推進すべく創設しました。

独自の優れた顧客価値を提供できる卓越した経営を目指す

©2023 Kansai Productivity Center

経営品質の基本理念

経営品質は、“**顧客本位**”、“**独自能力**”、“**社員重視**”、“**社会との調和**”の4つの要素を基本理念とする経営改革プログラムです。



〇**顧客本位**：企業・組織の目的は顧客価値の創造であり、顧客の価値評価こそがすべてに優先する。

〇**独自能力**：他の企業・組織とは異なる見方、考え方、方法による価値実現を目指す能力を醸成する。

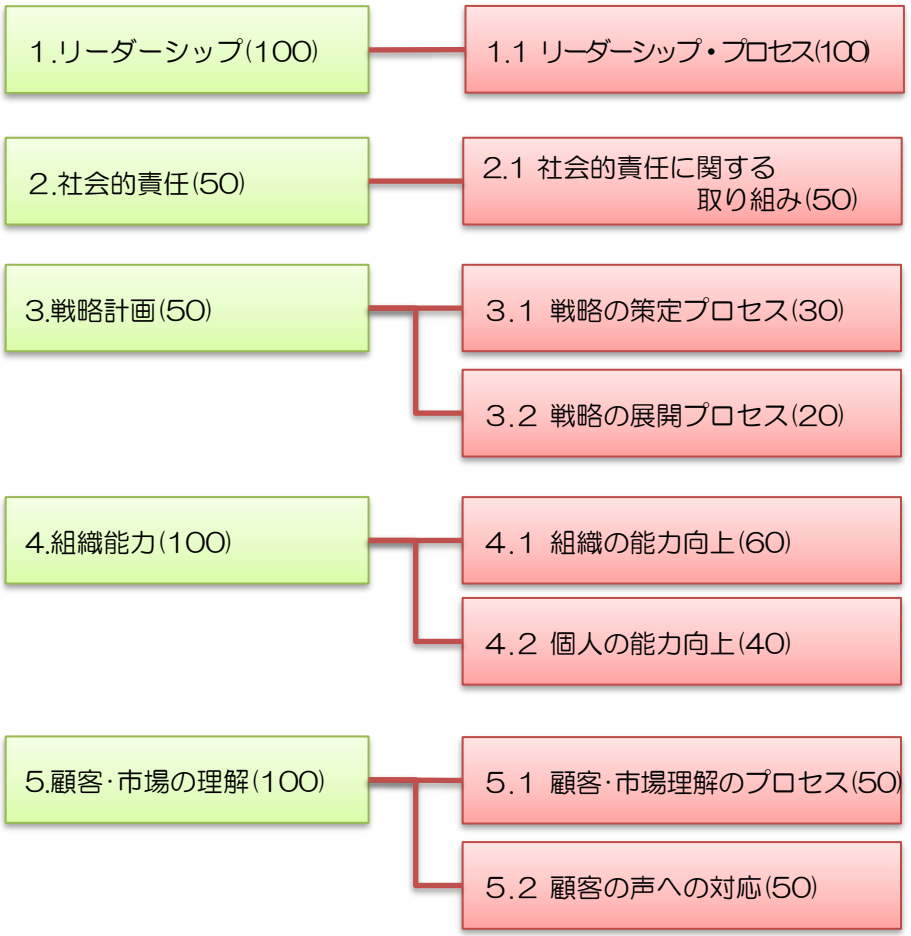
〇**社員重視**：社員の尊厳を守り、社員の独創性と知識創造によって企業・組織目標を達成する。

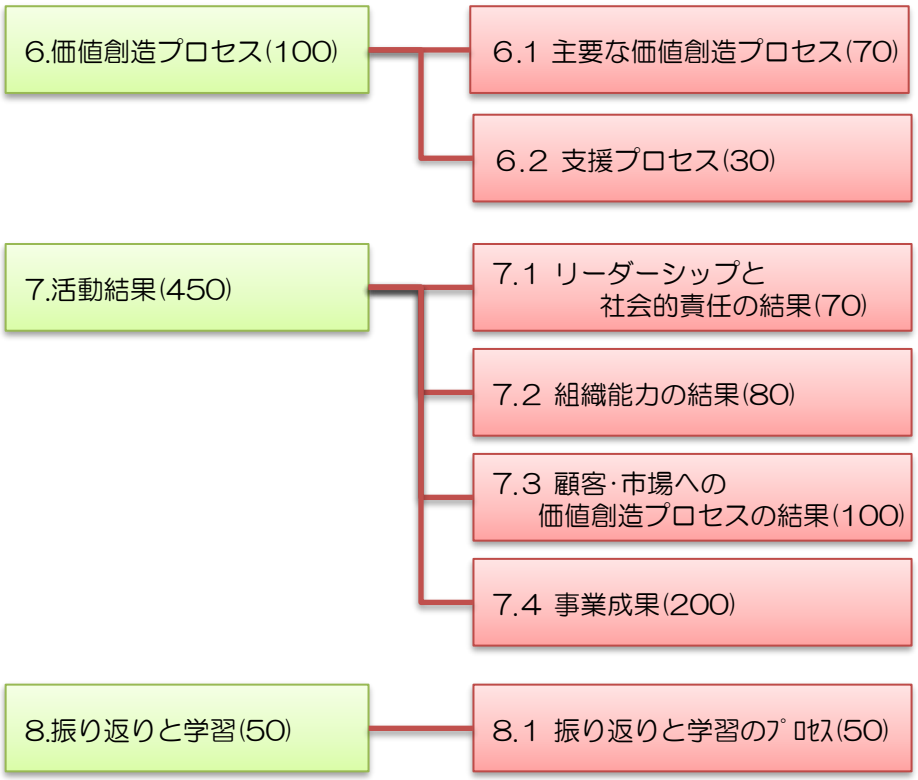
〇**社会との調和**：企業・組織は社会の一員であるとの考えに基づいて、社会に貢献する。

©2023 Kansai Productivity Center

2022年度より改訂

経営を多面的に見る





経営品質は全体最適を目指すため、
経営を8つの視点(カテゴリー)に分け、
全体の一貫性・関係性を意識して
1000点満点で評価します。

©2023 Kansai Productivity Center

2022年度より改訂

組織プロフィール／アセスメント項目

KPC KANSAI PRODUCTIVITY CENTER

組織プロフィール

1. 理想的な姿

2. 現状認識と環境変化
   (1)商品・サービス
   (2)顧客・市場
   (3)競争関係
   (4)経営資源

3. 変革のための戦略課題

方法のカテゴリー

戦略
- 1.リーダーシップ
- 2.社会的責任
- 3.戦略計画

組織
- 4.組織能力

業務
- 5.顧客・市場の理解
- 6.価値創造プロセス

結果のカテゴリー

- 7.1 リーダーシップと社会的責任の結果
- 7.2 組織能力の結果
- 7.3 顧客・市場への価値創造プロセスの結果
- 7.4 事業成果

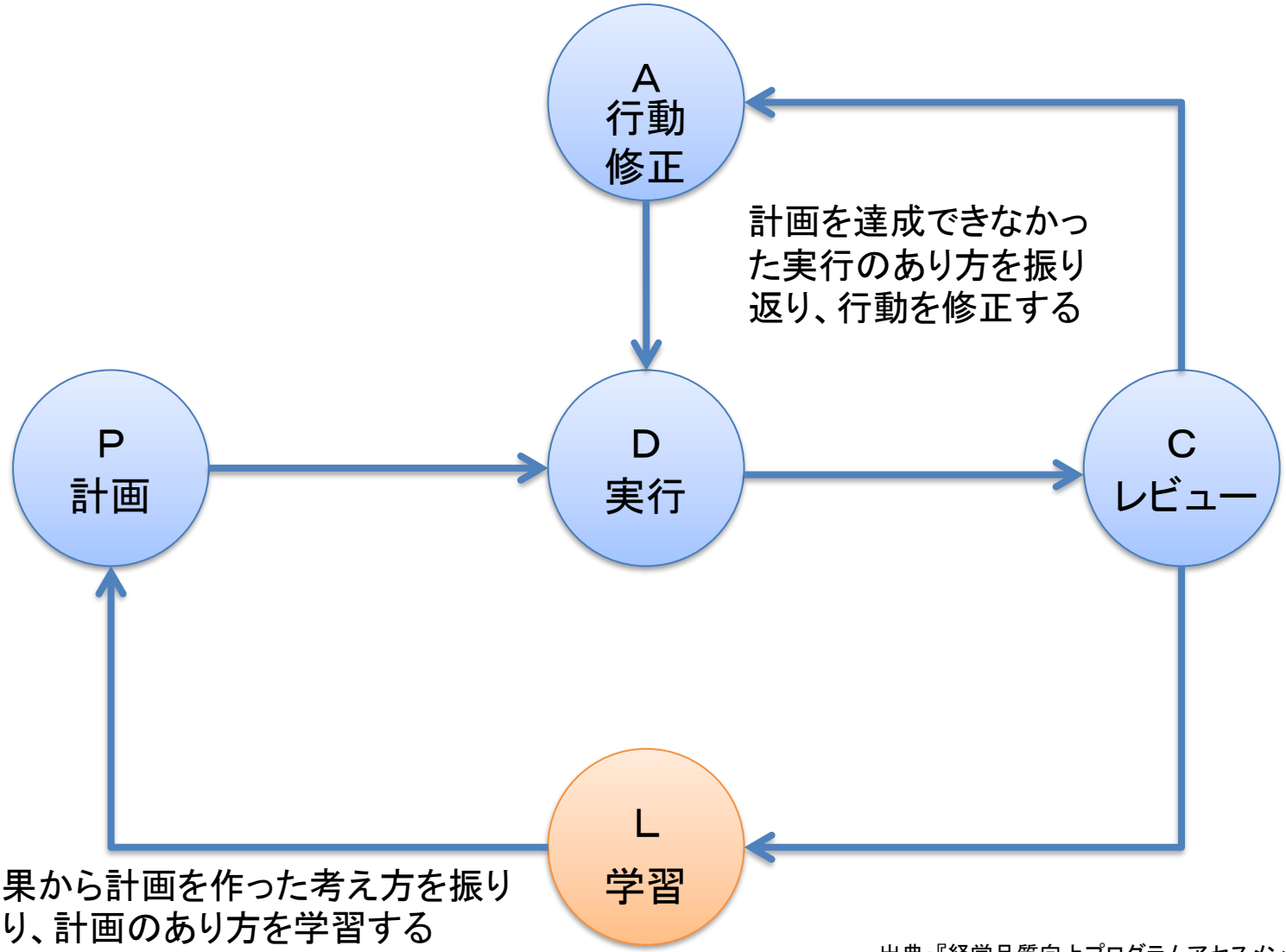
振り返りのカテゴリー

8.振り返りと学習のプロセス

振り返りによって明らかになった課題

©2023 Kansai Productivity Center
出典：2021年度 日本経営品質賞アセスメント基準書

2つのPDCAのループで検証



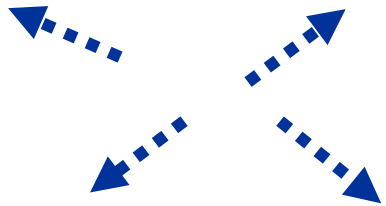
出典:『経営品質向上プログラムアセスメントガイドブック』(2012)

©2023 Kansai Productivity Center

「経営品質」における各成熟度レベルの活動の状態（組織全体でのイメージ）

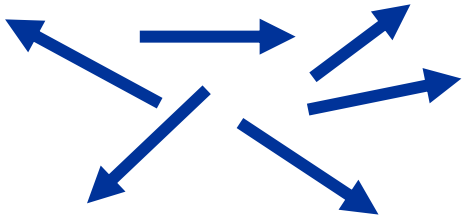
KPC KANSAI PRODUCTIVITY CENTER

Dレベルのイメージ



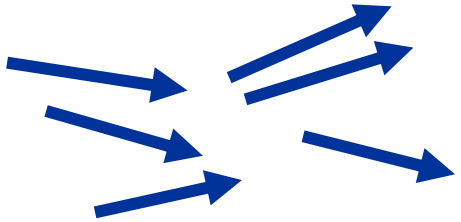
自社の現状把握ができておらず、経営の基本的方針が不明確で、業務に変革志向がない。あるいはどう変革してよいかわからない。

Cレベルのイメージ



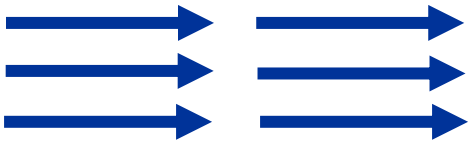
プロセスによる業務遂行でなく、目の前にあるニーズや問題への対応がほとんど。場当たり的で対処型の業務遂行。起こった問題に遅れて対応している。

Bレベルのイメージ



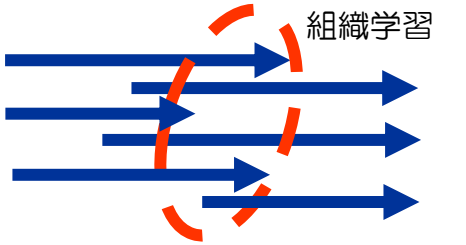
同じやり方で業務を行い、活動の目標と状態把握によって評価と改善が開始されている。一部プロセス改善が開始され、部分的な部門調整と連携が行われている。

Aレベルのイメージ



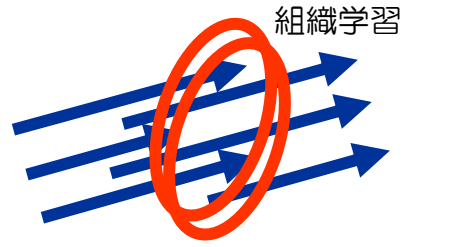
業務遂行は誰でも同じように行われており、改善と学習を目的とした定期的な評価が実施され、部門間調整と連携が行われている。プロセス改善が行われ、再発防止も行われている。

AAレベルのイメージ



業務遂行は誰が行っても同じように行われており、関係する他の部門との協働による変革と改善を目的とした定期的な評価が実施されている。部門を超えた全体最適が考慮され、実施されている。組織学習により先々を予測し、未然防止が行われている。

AAAレベルのイメージ

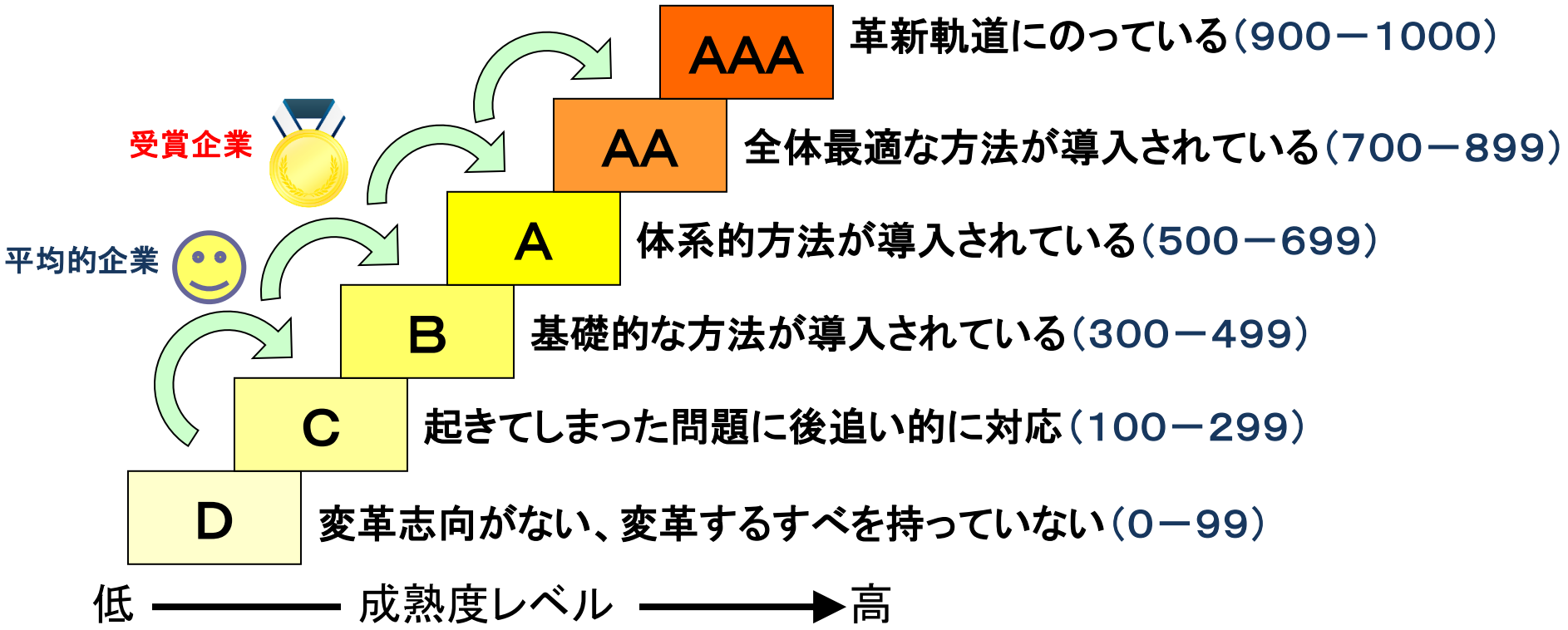


部門を超えた全体最適が考慮され、従来の規範を超えたダブルループ学習によって革新軌道が定着し、イノベーションが継続的に生まれている。

©2023 Kansai Productivity Center
出典：経営品質アセスメントコース グレード1[G1]テキスト

組織の成熟度を測る

「成熟度」とは、組織の自己変革能力を6段階で表現したもの。成熟度を把握することで、今後どのように改善すればよいかが明らかになります。



©2023 Kansai Productivity Center
出典：経営品質アセスメントコース グレード1[G1]テキスト

アセスメント基準書と顧客価値経営ガイドライン

(A4サイズ　全64ページ)

◆日本経営品質賞　アセスメント基準書

「卓越した経営」を目指し、経営品質向上活動を始めるにあたり、基本的な考え方から視点やアセスメント(評価)まで、活動の全てを網羅することができる経営のバイブルです。

(A4サイズ　全54ページ)

◆顧客価値経営ガイドライン

2022年度より、アセスメント基準書に代わり発刊。顧客価値経営を目指す上での指針として活用いただけるよう、実現するための有効な方法論や考え方、検討すべき内容例などが記載されています。

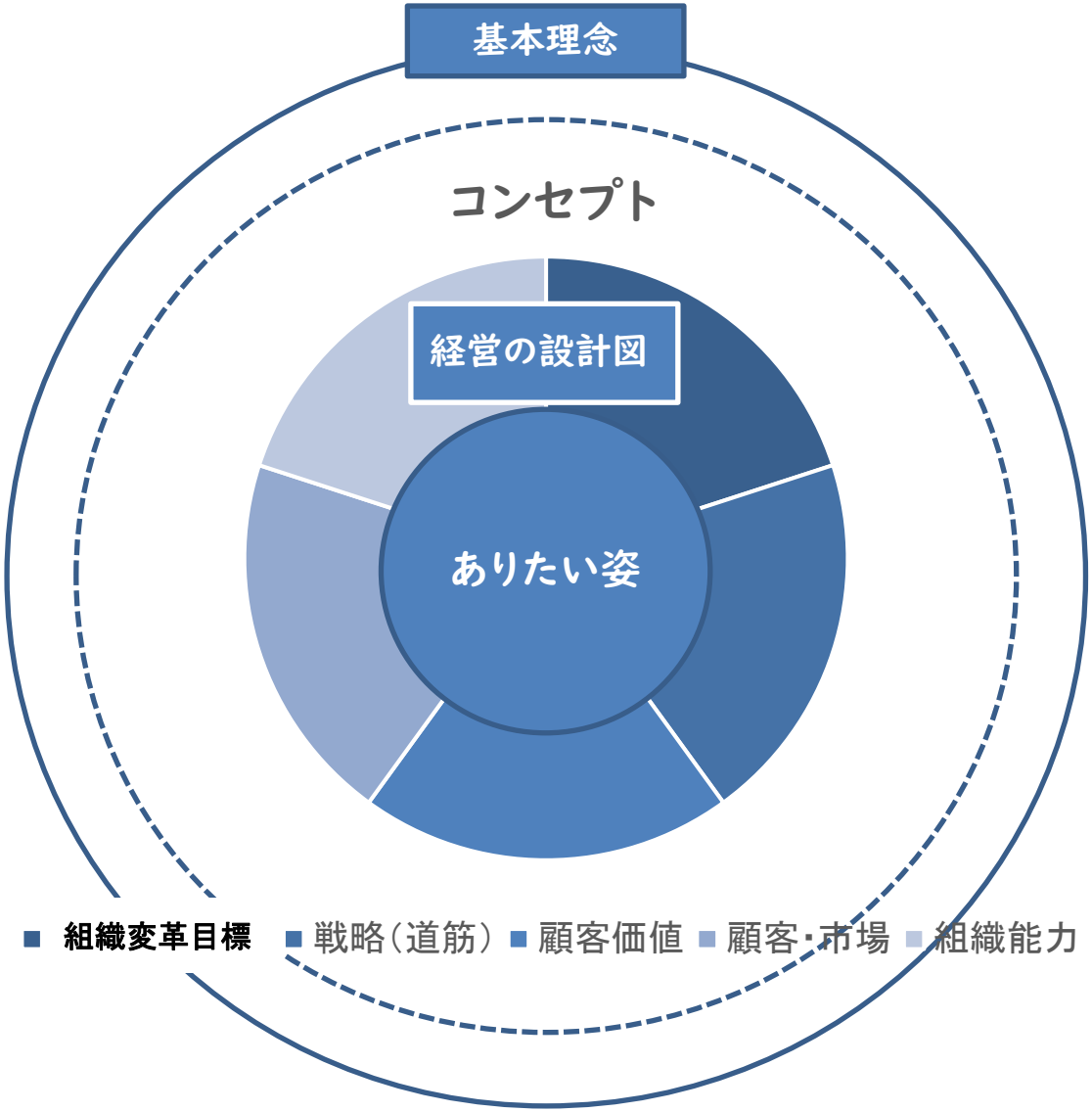
©2023 Kansai Productivity Center

顧客価値経営フレームワーク（思考と実践の枠組み）

KPC KANSAI PRODUCTIVITY CENTER

基本理念
【顧客価値を創造する】を最上位
①社員の自主性を高める
②社会と協調する

コンセプト
（基本姿勢、目指すために必要）
・ありたい姿から考える
・創発の機会を増やす
・意味・価値を探求し続ける
・様々な手段を尽くして、理解を深める
・思索的に対話を深める
・洞察の習慣を創る
・制約条件を考える



顧客価値経営ガイドライン　P5

©2023 Kansai Productivity Center

顧客価値経営フレームワーク（思考と実践の枠組み）

・経営の設計図（基本構想） WHY WHAT

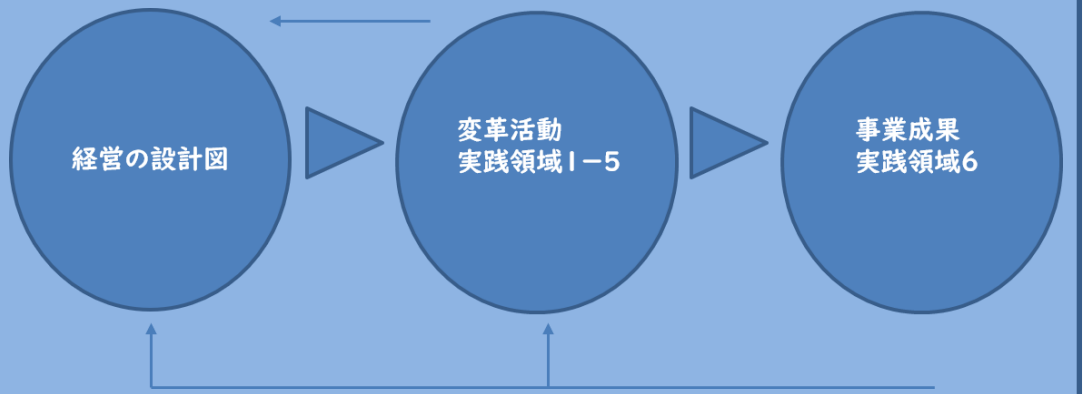
ありたい姿、戦略、組織能力、顧客・市場、顧客価値、組織変革目標
※旧組織プロフィール

・実践領域（ありたい姿に近づく変革活動の領域分けしたもの） HOW

1 ありたい姿 リーダーシップ・社会的責任
2 戦略 思考・実践
3 組織能力 向上・最適化
4 顧客・市場 洞察・理解
5 顧客価値 創造・提供

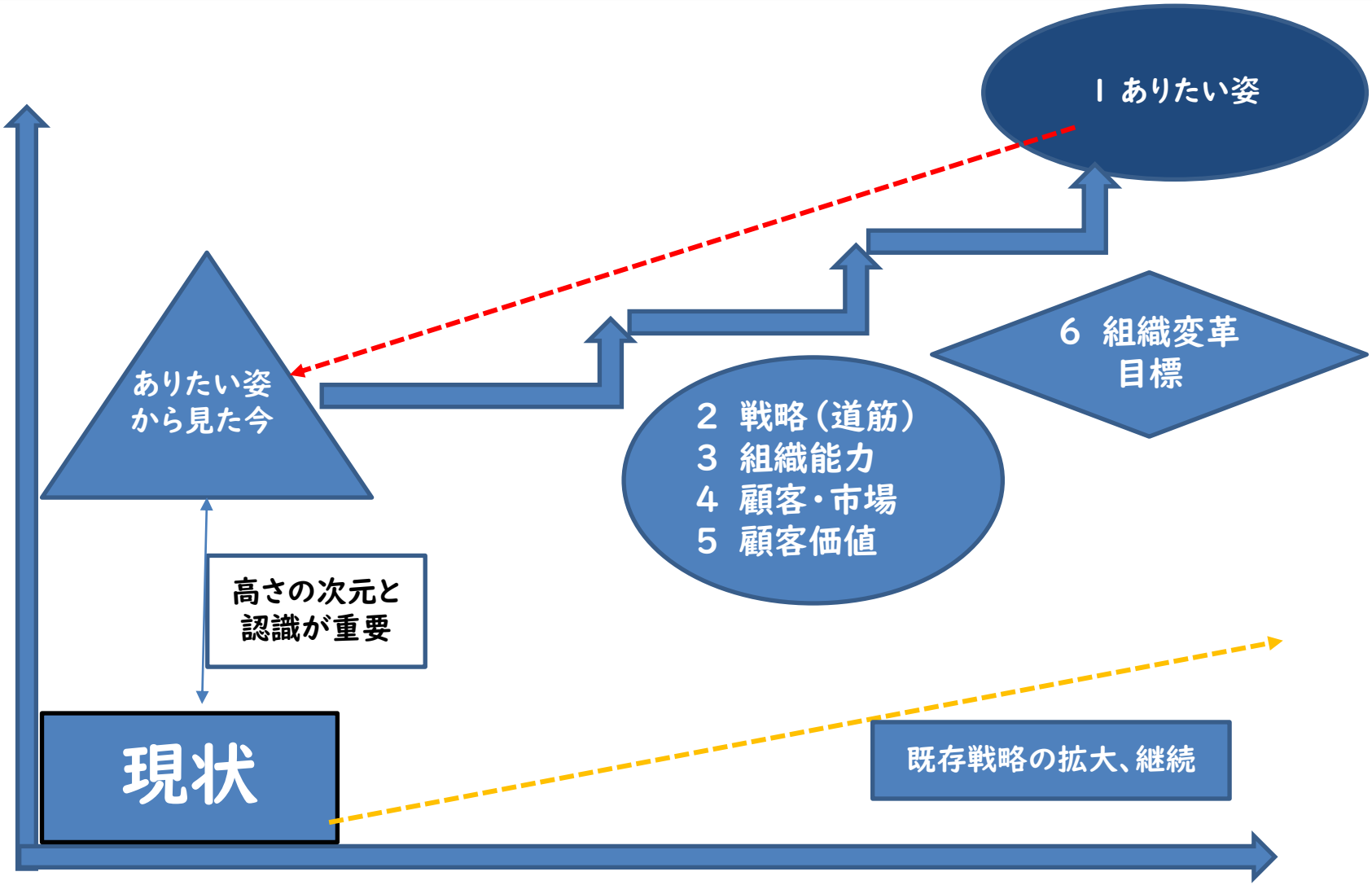
6 事業成果 持続性・卓越性

※旧カテゴリー



©2023 Kansai Productivity Center

バックキャスティング・ポジティブアプローチで考える顧客価値経営



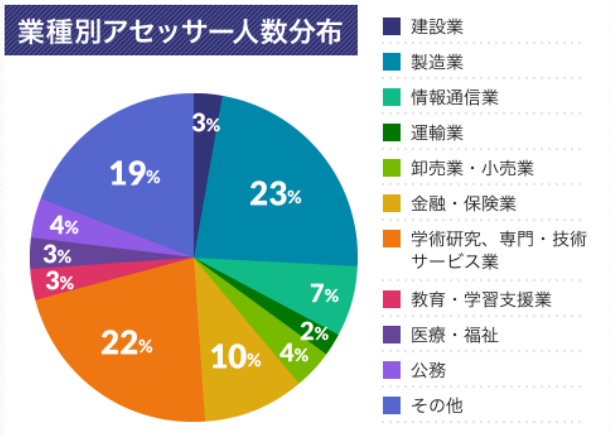
現状からではなく、「ありたい姿」から「今」を考える

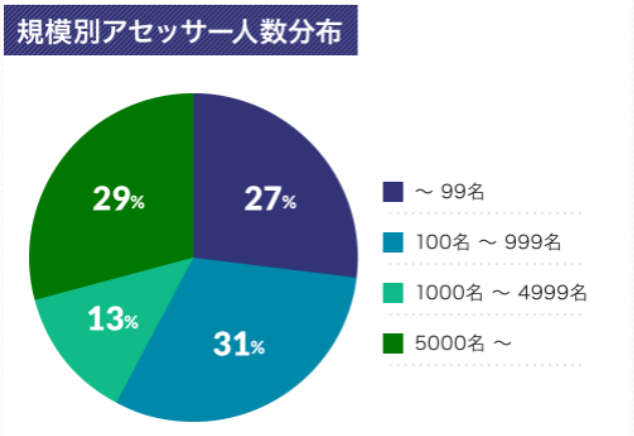
©2023 Kansai Productivity Center

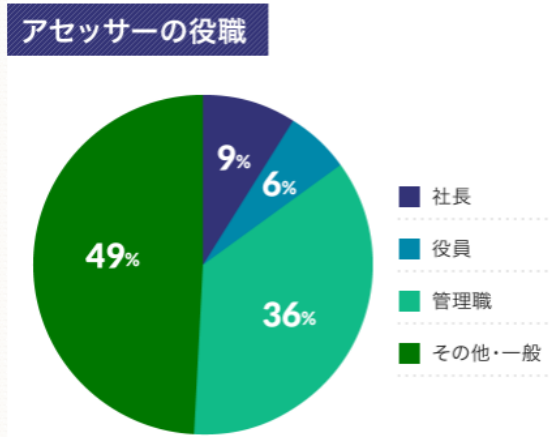
顧客価値経営の学習

【顧客価値経営　実践者推進コース】　全６日間　※旧アセスメントコース

・顧客価値経営 実践推進者コース（以下実践推進者コース）は、顧客価値を追求する経営を実践する上での指針となる「顧客価値経営ガイドライン」の理解を深め、自組織や関係先、支援先における顧客価値経営の実現に向けて経営革新を実践・推進する人材を養成するプログラムです





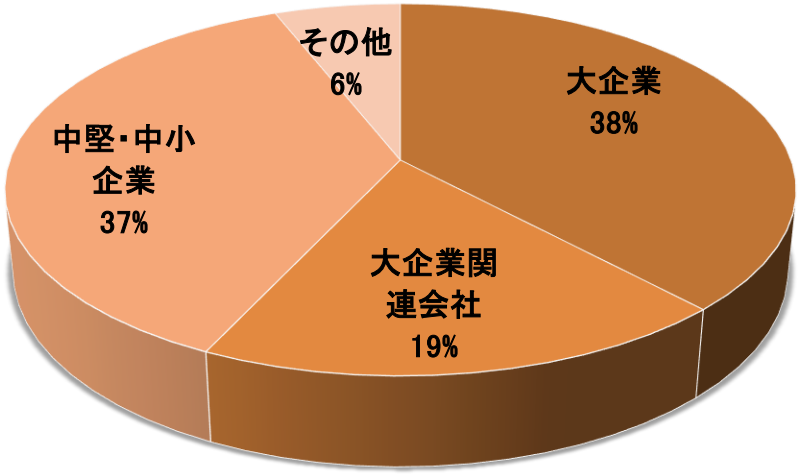


〈当協議会への一括申込みの割引適用参加費〉
〇各地域経営品質協議会会員：**236,250円+税**　／　各地域生産性本部賛助会員：**258,750円+税**　／　一般：**281,250円+税**

©2023 Kansai Productivity Center

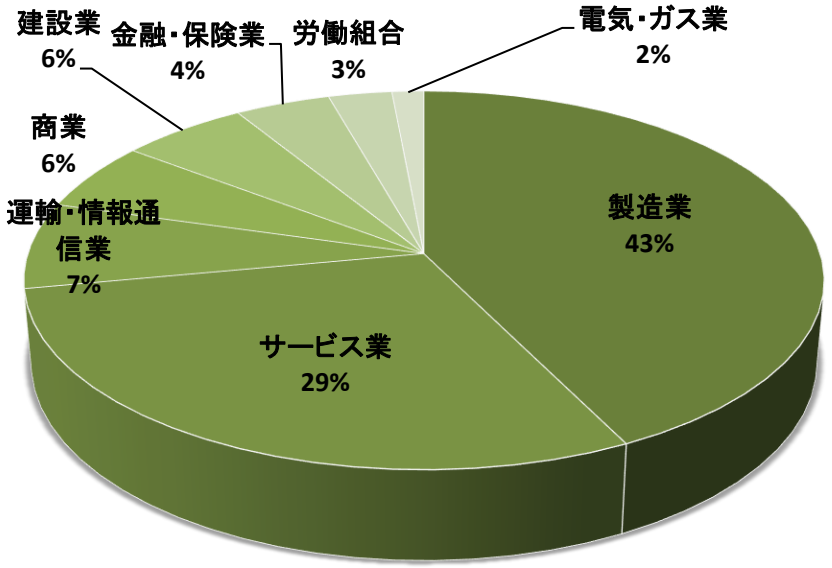
経営品質に取り組む企業(関西)

企業規模



大企業4割、大企業関連会社2割、中堅・中小企業4割と大企業と中堅・中小企業がほぼ同じ割合です。

業種



製造業が約4割、サービス業が約3割、運輸・情報通信業が約1割と製造業とサービス業が中心です。

©2023 Kansai Productivity Center

経営品質に取り組んだ経緯(関西)

経営品質に取り組んだ経緯／取り組んだ目的
社員全員が経営者の視点を持って事業推進できるようにするため
創業社長のリーダーシップ経営から世界に通用する組織経営体制に生まれ変わる挑戦
経営スタイルの変革
顧客サービスに対する意識の低さに衝撃を受けて
閉塞感のある組織風土・経営体質から脱却
外部環境に左右されない強い組織づくり
「顧客の期待を超えるサービス」の実現
従業員一人ひとりが、やりがいと誇りを持てる組織づくりのため

主な理由として、「従業員が自ら行動できるようにしたい」「顧客視点に立った経営をしたい」「オーナー経営から組織経営への転換」などがあります。

©2023 Kansai Productivity Center

「関西経営品質賞」のミッション

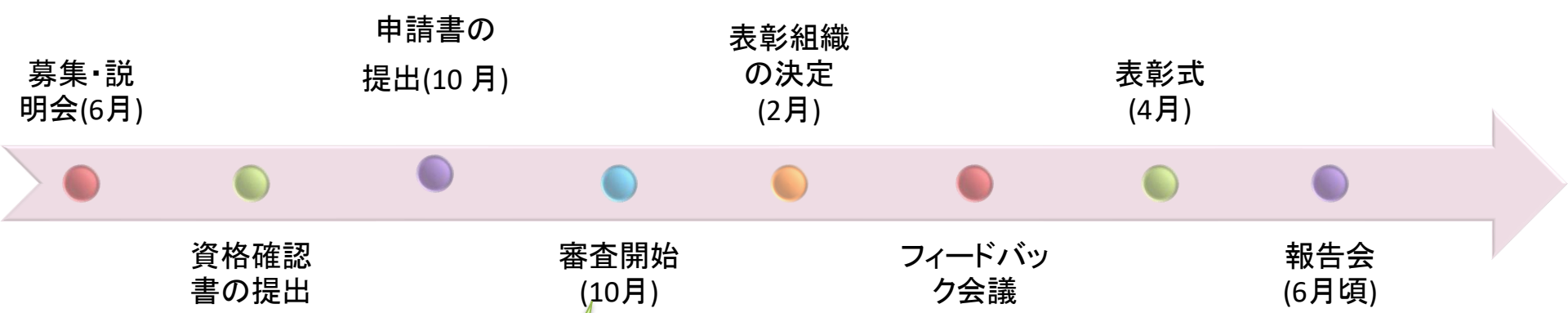
「“良い経営”を通じて関西から
世界に誇る企業・組織を輩出する」

～私たちがこの賞を通じて実現したいこと～
１．表彰による、目指すべき“良い経営”の提示
２．気づきによる、更なる経営革新の実現の支援

◆良い経営とは
１）良い経営の正解はない
２）将来は分からないからこそ、規範的に考える
３）対話と創造が良い経営をもたらす
４）考えていることと、行動を一致させる

©2023 Kansai Productivity Center

「関西経営品質賞」の審査の流れ



審査プロセス

- **審査計画の作成とトップインタビュー（1日)**
- **合議審査（2日間)**
- **第1回判定委員会**
- **現地審査（3日間)**
- **第2回判定委員会**
- **関西経営品質賞委員会**

©2023 Kansai Productivity Center

「関西経営品質賞」の各賞

「“良い経営”を通じて関西から世界に誇る企業・組織を輩出する」のミッションのもと、イノベーションに継続的に取り組み、優れた業績をあげている組織を表彰しています。

関西経営品質賞　プラチナ

・アセスメント基準において、総合評点が概ね「**AA(700点以上)**」レベル以上と認められる企業・組織に授与される。

関西経営品質賞 ゴールド

・アセスメント基準において、総合評点が概ね「**A(500～699点)**」レベルと認められる企業・組織に授与される。

関西経営品質賞 シルバー

・アセスメント基準において、総合評点が概ね「**B＋(400～499点)**」レベルと認められる企業・組織に授与される。

関西経営品質賞 ブロンズ

・アセスメント基準において、総合評点が概ね「**B－(300～399点)**」レベルと認められる企業・組織に授与される。

©2023 Kansai Productivity Center

「関西経営品質賞 ベーシック認証」について

「関西経営品質賞 ベーシック認証」では、申請と審査プロセスの負担を軽減することで、経営品質賞・経営品質向上プログラムの入口として、お取組みを開始しやすくするとともに、さまざまな企業様にお取組み頂き、今後、成長が期待できる企業を認証し、情報発信も行うことを目的に2021年度に新たに設立。

アフターコロナを見据えての戦略・事業の転換や経営革新への取組みを検討中の組織に有用な制度を目指しております。申請前には公開研修（有料）等を通じて、経営品質に関して、あるいは申請書作成についての理解を深める場を設け、皆様にもお取組み頂きやすいような体制を整えております。

■認証基準

経営品質向上プログラムの視点から下記の3項目を審査します

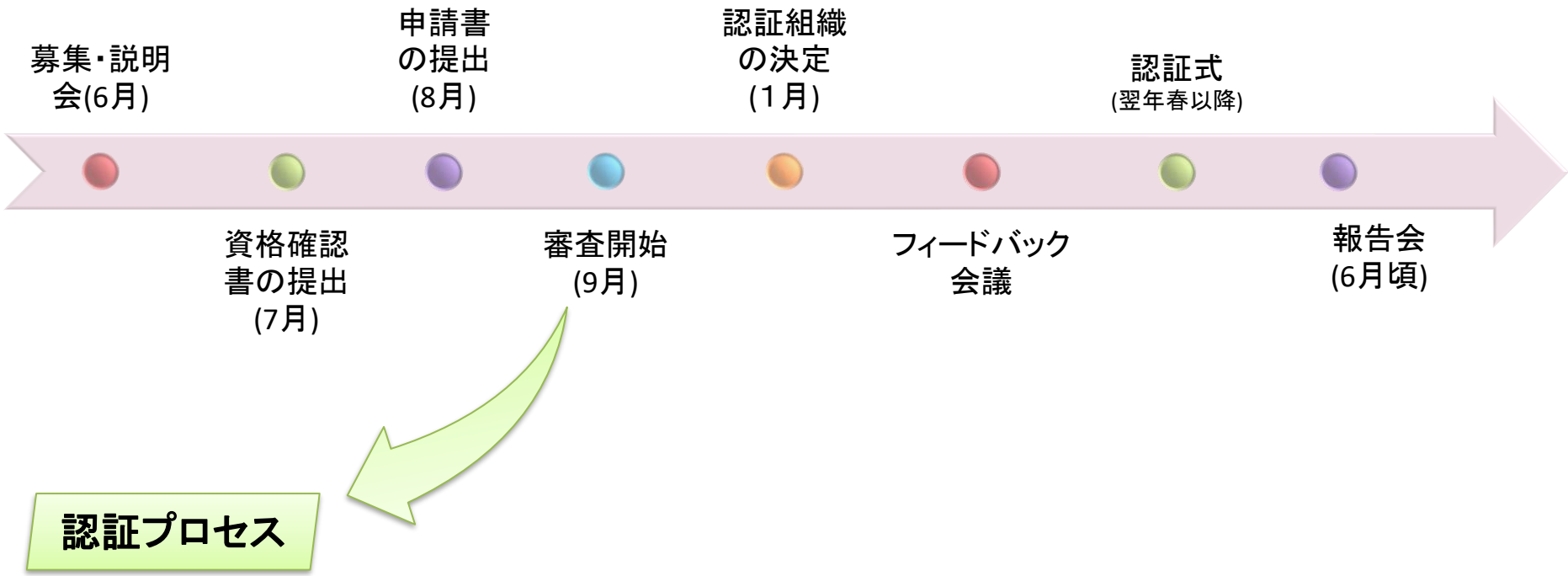
① 戦略の実現可能性があること
② 事業の成長性に期待がもてること
③ 組織の継続性に問題が無いこと

■認証期間

3年

©2022 Kansai Productivity Center

「関西経営品質賞」 ベーシック認証の審査の流れ



認証プロセス

- **書類審査・合議審査**
- **トップインタビュー（1日)**
- **認証会議**
- **関西経営品質賞委員会**

©2023 Kansai Productivity Center

賞を運営する組織とその役割

■賞委員会
本賞全体における最高意思決定機関で、表彰組織の最終決定・発表および、表彰制度、審査員の選考基準、審査プロセスなど本賞に関するあらゆる面について審議・決定します。

委員長	大坪　清	(公財)関西生産性本部 会長(レンゴー㈱代表取締役会長兼CEO)
委員	岡橋　達哉	㈱りそな銀行 代表取締役副社長 兼 執行役員
	田中　宏和	(公財)関西生産性本部 副会長(連合大阪 会長)
	村田　治	(公財)関西生産性本部 副会長、関西学院経済学部教授
	平井　紀夫	元 オムロン㈱ 副社長

■判定委員会
各分野の専門家である学識経験者が、審査員による申請組織の審査結果及び評価レポートの妥当性、さらに表彰組織候補を判定し、関西経営品質賞委員会に推薦します。

委員長	加護野　忠男	神戸大学　名誉教授
副委員長	原田　勉	神戸大学大学院　経営学研究科 教授
委員	石井　淳蔵	神戸大学 名誉教授、流通科学大学 名誉教授
	小菅　正伸	関西学院大学 商学部教授
	松山　一紀	同志社大学 社会学部産業関係学科 教授

■賞制度企画委員会
賞制度、審査プロセス、審査員養成などの本賞に関する制度について審議・決定します。

委員長	平井　紀夫	元 オムロン㈱ 副社長
副委員長	加護野　忠男	神戸大学　名誉教授
委員	宇高　育男	コベルコビジネスパートナーズ㈱ ビジネス研修部上席部員
	長友　隆司	㈱Kairos 代表取締役
	山元　喜尚	ワイ・エム・オフィス 代表

©2023 Kansai Productivity Center

2021年度「関西経営品質賞」受賞組織

関西経営品質賞 シルバー

●社会福祉法人　聖綾福祉会

設立	1948年
代表者	理事長 山本　良祐
本社	大阪市西淀川区
売上高	1,471百万円（2022年3月）
従業員	161名（非正規社員含む）（2022年3月）
事業内容	在宅介護事業、施設介護事業、訪問介護サービス事業

関西経営品質賞ブロンズ

●加古川動物病院

設立	1995年
代表者	代表取締役 長谷川 哲也（はせがわ　てつや）
本社	大阪府大阪中央区
売上高	非公開
従業員	35名（（非正規社員含む））（2022年3月）
事業内容	獣医療（小動物診療）

©2023 Kansai Productivity Center

「関西経営品質賞」歴代受賞組織

2004年度	イノベーション賞	(株)パトライト　松下電器産業(株)松下ホームアプライアンス社
2005年度	ポテンシャル賞	(株)遠藤照明
2006年度	イノベーション賞	松下電器産業(株)松下ホームアプライアンス社
2007年度	イノベーション賞	※(株)スーパーホテル
	ポテンシャル賞	(株)カミッグ
2008年度	イノベーション賞	パナソニック(株)モータ社
2009年度	関西経営品質賞	(株)プライミクス
	奨励賞	(株)ベル　※滋賀ダイハツ販売(株)
2010年度	関西経営品質賞	パナソニック電工解析センター(株)
	奨励賞	(株)カミッグ　(株)神戸ポートピアホテル
		(株)シティー・エステート介護事業部
		(株)森長工務店　ヤチヨコアシステム(株)
2011年度	奨励賞	(株)伍魚福
2012年度	関西経営品質賞	(株)森長工務店 ヤチヨコアシステム(株)
	優秀賞	(株)伍魚福　(株)シティー・エステート 介護事業本部
	奨励賞	浜理薬品工業(株)
2013年度	優秀賞	(株)京進　ノアインドアステージ(株)
2014年度	優秀賞	(株)神戸ポートピアホテル　浜理薬品工業(株)　レッキス工業(株)
	奨励賞	平安キヤノン事務機(株)
2015年度	ゴールド	(株)スーパー・コート 介護事業本部
	ブロンズ	(株)ケーイーシー　日本電子工業(株)
		医療法人誠仁会 りょうき歯科クリニック
2016年度	シルバー	(株)王宮　道頓堀ホテル
2017年度	ゴールド	(株)王宮　ホテル 宴会・宿泊部門
	シルバー	(株)リブドゥコーポーレーション ライフケア国内事業部門
	ブロンズ	三和建設(株)
2018年度	シルバー	社会福祉法人 あかね、(株)ケーイーシー、医療法人誠仁会 りょうき歯科クリニック
	ブロンズ	日本電子工業(株)
2019年度	ゴールド	浜理薬品工業(株)
	シルバー	(株)リブドゥコーポーレーション メディカル事業部門

2009年・2015年に
日本経営品質賞

2013年に
日本経営品質賞

2018年に
日本経営品質賞

©2023　Kansai Productivity Center

「関西経営品質賞　ゴールド」受賞組織

■関西経営品質賞　ゴールド

●(株)王宮　ホテル　宴会･宿泊部門(大阪市)　〈ﾋﾞｼﾞﾈｽﾎﾃﾙ、ﾎﾃﾙ宴会〉

・使命感に満ち溢れた自律的人材の育成
・理想の姿に向けた挑戦意欲を育む組織風土
・おもてなしや体験を通じて「日本を好きになってもらう」宿泊サービス
・「笑いあり・涙あり」でお客様同士の絆が深まる宴会サービス

●(株)スーパー・コート　介護事業本部(大阪市)　〈有料老人ホーム〉

・自ら考え行動し、人に感謝・感動する人間を育てる組織風土
・入居者の身体機能向上や家族との繋がりを大切にした介護サービス
・ITを駆使した医療・介護の包括サービス実現への取り組み

●(株)森長工務店(大阪市)〈建設〉

・「安心」と「信頼」により建設業界でストックビジネスを実現！
・24時間対応など、ビジネスパートナーと一体化した誠実な顧客対応！
・基本理念「『ありがとう』の溢れる会社」の浸透

©2023 Kansai Productivity Center

関西地域の日本経営品質賞受賞組織

■日本経営品質賞

●(株)スーパーホテル(大阪市) ～安全、清潔、ぐっすり眠れるホテル ～

低価格で顧客のニーズに応え、かつ、高い稼働率を実現するためのビジネスモデルを確立した上に、さらに経営品質向上会議によって、一貫性と整合性のある組織づくりを追求することで業界NO. １ホテルチェーンとして確固たるポジションを築き、高い顧客満足度や社員満足度、良好な財務結果などの成果に結びついている

●滋賀ダイハツ販売(株)(滋賀県栗東市)～女性の心をとらえる価値づくり～

ＣＳを経営の柱にすべく経営品質の考え方にもとづいた経営を実践。先進企業へのベンチマーキングや日本経営品質賞への挑戦で学んだことをすばやく取り入れ、社員を中心に顧客起点の革新を進めてきた。その結果、全国ダイハツディーラーの中では、常に地域シェアとＣＳ調査のランキング上位の両立を維持し、優秀ディーラーのポジションを確立している。

●(株)ワン・ダイニング(大阪市)～「価値ある経営」を目指して～

関西地区中心に、主に郊外を中心に焼肉レストラン、しゃぶしゃぶレストランの事業を展開。一店舗ごとの価値を高めることを出店の基本戦略と定めている。セントラルキッチンをもたず、店舗ごとに肉の加工を行うことで新鮮でおいしい肉を提供することを独自価値としている。アルバイトをはじめとした従業員の教育を重視してホスピタリティを高めている。

©2023 Kansai Productivity Center

申請組織の声(関西)

申請企業へのアンケート結果
フィードバックレポートには、改善提言や例示があるため、大変参考になる
弊社がぼんやりと課題と思っていたことを明確に指摘いただき、また本質をついた問題提起をいただきました
この仕組みを大いに利用し、経営の質を高める
改善点については多くの時間を費やしてきたが、改めて外部の方からフィードバックをいただき課題を共有できたと思う
速やかに組織内の改善・改革の活動に反映し、より強い組織を目指していきたい
改革の節目など組織能力を定期的に測定する目的で今後も申請を検討したい
客観的な意見に触れる機会がないので、違った視点での意見から気づきがありました

主な意見として、「ファイードバックレポートの改善提案・例示が良い」「異業種の方々(審査員)からの意見が聞けるので良い」「数年ごとに申請し、経営のレベル評価をしている」「各賞を取ることで、社内に活気が出る」などがあります。

■申請組織の直近3年間の伸び率

- **営業利益　平均10%(最大90%)**
- **顧客満足　平均10%(最大50%)**
- **従業員満足　平均25%(最大120%)**

※成長産業では比較的伸び率が高く、全体的にCSとESの伸び率がリンクしていることが多いです。

©2023 Kansai Productivity Center

フィードバックレポート

フィードバックレポート

5 顧客・市場の理解(100)

レベル D C B A AA AAA

【評点根拠】
＜展開・統合の状態＞
＜改善・革新への取り組みの程度＞

【強みと改善領域】

強み	①	
	事象	
	効果	
	②	
	事象	
	効果	
改善領域	①	
	事象	
	改善理由	
	例示	
	②	
	事象	
	改善理由	
	例示	

サンプル

①新規出店時の顧客・地域を理解する全社横断活動の定着		
強み	事象	自社独自の立地診断・近隣調査システム、イベント情報の収集、法人顧客訪問などが全社間で協力して収集・共有されている。
	効果	属人的でない組織的な新店舗開発体制が確立し、組織内で浸透している。その結果、初月度の稼働率の向上という全社目標の達成に貢献している。

①把握した顧客ニーズを有効に選別するための検証プロセスの構築		
改善領域	事象	様々な方法で把握した顧客ニーズが真実なのかを検証するプロセスが見受けられない。
	改善理由	新規顧客・リピータの増加に繋がらないニーズは選別して排除する必要がある。これにより、よりターゲットを絞った施策実行が可能となる。
	例示	顧客ニーズに基づいて開発されたサービスの成果をトレースし、費用対効果との相関を検証する。

©2023 Kansai Productivity Center

各種メディアの取材等

新　聞

パナ電工試験機関に
「関西経営品質賞」
関西生産性本部（会長＝大坪清・レンゴー社長）は27日、経営革新により優れた業績を上げた関西の企業などを表彰する2010年度の「関西経営品質賞」（読売新聞大阪本社など後援）に、パナソニック電工解析センター（大阪府門真市）を選んだと発表した。
同社は、パナソニック電工傘下の製品開発のための

関西生産性本部の大坪清会長（左）から表彰されるヤチヨコアシステムの前田正夫社長＝大阪市天王寺区（石川有紀撮影）

24年度の関西経営品質賞
森長工務店とヤチ
関西生産性本部は、すぐれた顧客満足（CS）、従業員満足（ES）に取り組んでいる企業を表彰する「関西経営品質賞」に、市旭区の森長工務店と、ヤチヨコアシステム（大阪市天王寺区）の2社を選んだ。19日、社の

関西経営品質賞受賞社代表が講演
関西生産性本部 経営イノベーション・フォーラム開催

経営品質賞に「伍魚福」
関西生産性本部は16日、経営革新により優れた業績を上げた

関西経営品質賞
ゴールドに「王宮」
関西生産性本部は13日、優れた経営の企業を表彰する2017年度「関西経営品質賞」（読売新聞大阪本社など後援）のゴールドに、「王宮 ホテル寝会・宿泊部門」（大阪市中央区）を選んだと発表した。王宮は昨年度の「シルバー」に続き、2年連続の受賞となった。
王宮は1970年に創業し、大阪・道頓堀で「道頓堀ホテル」を運営。09年にいち早くアジアの旅行客にターゲットを絞り、宿泊客数を伸ばしている。16年11月からは「ブリッジホテル」の運営も手がけ、事業を拡大していることも評価され

心に残る
「評価するのはお客さま」学ぶ
伍魚福社長 山中勧さん（48）
「経営品質賞」
日経経営品質賞 日本生産性本部が平成7年に創設。「卓越した経営の仕組み」を有する企業を表彰する制度で、同賞、経営革新優良賞、経営革新奨励賞の3ランクがある。33年度までの16年間に190の組織が申請し、30組織が受賞している。

読売新聞、産経新聞、朝日新聞、毎日新聞 など

雑誌

2009年度 日本経営品質賞 表彰式・報告会
フォーカス & チェンジ
謙虚で品がある
時代の最先端をゆく
バイオニア
スーパーホテル特集 企業家倶楽部
VENTURE
4
ビジネスホテルのフロントランナー
スーパーホテル 会長
山本梁介 のすべて
日本経営品質賞を受賞したシスコの革新
ビジネステクノロジーを基盤に据えた
「新たな組織」が日本企業を元気にする
日本経営品質賞
2冠の徹底力
やむことなき改善・進化を続ける小山流経営

企業家倶楽部、日経ビジネス、商業界

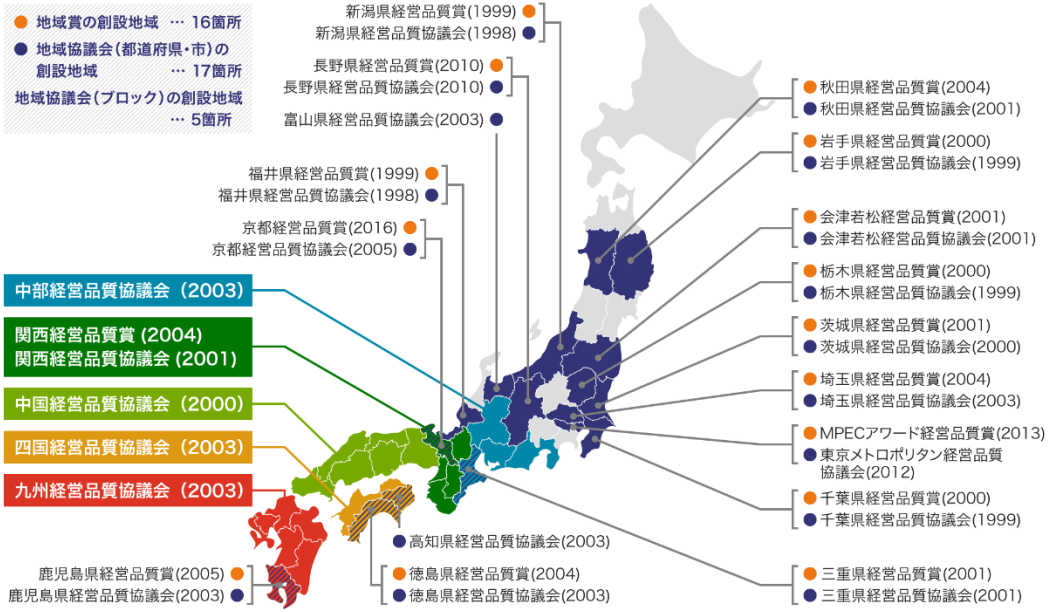
TV

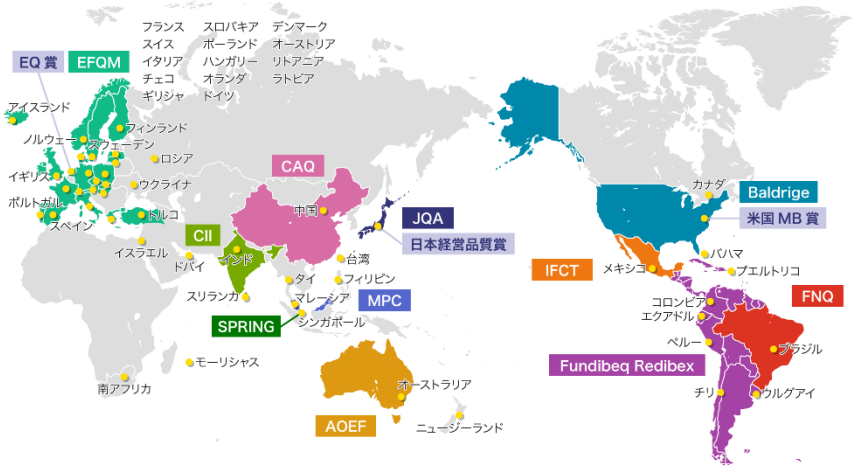
「カンブリア宮殿」(テレビ東京)
「今、日本を最も面白くする企業家たち」(BS12 TwellV)　他

©2023 Kansai Productivity Center

経営品質の拡がり

現在では、趣旨を同じくする賞の設立が世界約100ヵ国以上の国や地域で進んでいます。
日本での経営品質の取組みは、国内に22の協議会があり、各地区で活動しております。





©2023 Kansai Productivity Center

組織内で経営品質を推進する

（例示）

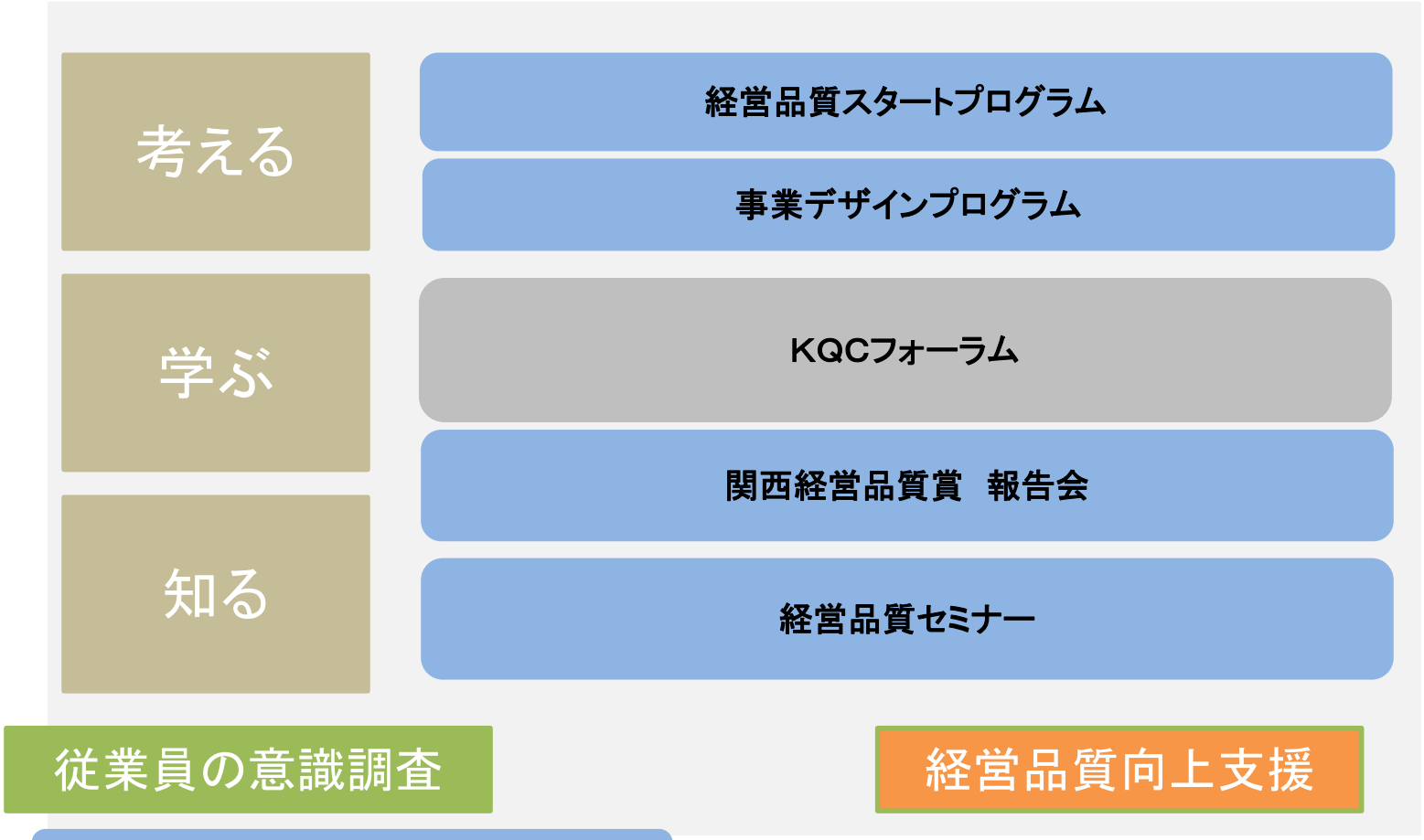
- 組織の現状を把握する
- 組織が目指す姿
- 戦略シナリオの作成
- KEYプロセスの明確化
- 成果（目標）の明確化
- 部門展開・レビュー

0. 組織の現状を理解する
1. 組織が目指す姿を明らかにする
2. その姿を実現する戦略（道筋）を明らかにする
3. その戦略を実行する上でKEYとなるプロセスを明らかにする
4. そのプロセスに対する成果（目標）を定量化する
5. その定量化した数値を部門目標に展開する
6. 部門目標を定期的にレビューし、未達の原因を探る

©2023Kansai Productivity Center

組織内で経営品質を推進する(自己研磨・事例収集)

KPC KANSAI PRODUCTIVITY CENTER



※関西経営品質協議会のプログラム(抜粋)

©2023 Kansai Productivity Center

経営品質向上活動導入支援

経営品質について知りたい方

〈早分かり経営品質講座〉

・経営品質の概要説明、事例紹介 等
・体験学習(他社のケーススタディ・組織プロフィール作成体験 等)

経営品質向上活動を開始したい方

〈経営品質スタートプログラム〉

・組織プロフィール作成し、経営計画への落とし込みを行う
・セルフアセスメント

企業固有の要望や課題をお聞きしカスタマイズします

©2023 Kansai Productivity Center

関西生産性本部／関西経営品質協議会

団体の名称：公益財団法人 関西生産性本部
設立：1956年4月17日　(法人設立1982年2月4日、公益財団法人へ移行2011年4月1日)
基金：2億円
賛助会員数：574組織　(2022年5月1日現在　法人、労働組合、団体を含む)
活動範囲：大阪府・滋賀県・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県・福井県
事業　(1) 経営に関する調査研究、普及啓発及び人材育成
(2) 労使関係に関する調査研究、普及啓発及び人材育成
(3) 地域の経済社会システムに関する調査研究及び普及啓発
(4) 前各号に関する海外との交流及び提携
(5) (1)から(3)に係る診断指導
(6) 生産性運動組織の育成並びにこれとの交流及び提携
(7) 前各号に関する情報の収集及び提供
(8) その他、本財団の目的達成に必要な事業
上記事業については、本邦及び海外において行う
「定款　第2章第4条より」

名称：関西経営品質協議会
創設：2001年5月
会員数：39組織　(2023年9月1日現在　法人、労働組合、団体を含む)
活動範囲：大阪府・滋賀県・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県・福井県
事業　(1) 経営品質向上活動の普及
(2) 経営革新を担う人材の育成
(3) 経営品質向上事例の報告
(4) 経営品質向上プログラムを活用した経営革新の支援

所在地：〒530-6691
大阪市北区中之島6-2-27　中之島センタービル28階
お問合せ先：06-6444-6464　担当：揚倉(ｱｹﾞｸﾗ)
ホームページ： https://www.kpcnet.or.jp/kqc